



2025年3月1日発行  
(毎月1日・1回発行)  
1988年1月27日第3種郵便物認可  
定価50円  
発行/  
公益財団法人横浜YMCA  
広報センター  
〒231-8458  
横浜市中区常盤町1-7  
Tel 045-662-3721

横浜青年

# YMCA NEWS



## 能登半島地震・豪雨災害支援活動報告 コミュニティの機能を支えるために

横浜YMCAでは、2024年1月と9月に能登半島で発生した地震・豪雨災害支援活動に取り組んでいます。1月6日に横浜YMCA全スタッフに向けて行われた「能登半島豪雨災害支援報告」では、2024年10月から11月までの第1次から7次までに参加したスタッフのうち4人がそれぞれの活動報告を行いました。今後の支援活動について共に考えていきたいと思います。

横浜YMCAでは、能登半島地震・豪雨災害支援活動として2024年2月にいしかわ総合スポーツセンター内に開設された1・5次避難所における運営アドバイザーとしてスタッフを派遣、5月に輪島市町野町の東陽中学校にある指定避難所の運営サポート、8月にキャンプ支援にスタッフを派遣、その後10月から11月に輪島市町野町に1次から7次(2次は交通事情により実施見送り)の派遣で延べ52人(スタッフ、YMCA専門学校学生、聖光学院高等学校生と教員)を2泊3日ずつ派遣し支援活動に取り組みました。

1月6日に横浜YMCA全スタッフに向けて行われた「能登半島豪雨災害被災地支援報告」では、6次(11月19日から21日)に派遣された4人のスタッフが支援活動について報告しました。ワークの内容は派遣時期により異なりますが、2泊3日の活動内容を次のように話しました。



▲第7次派遣として能登支援活動に取り組む皆さん(2024年11月)

6次では、1日目に仮設トイレの清掃や個人宅での家財・備品の清掃、土のうや植木の運び出しなどを行いました。木材は水や泥と一緒に混ざっているため想像以上に重かったこと、まだまだ片づける必要があるため支援を継続していくことが必要だと感じました。2日目には個人宅の家財道具の移動や運搬、床下の泥清掃などに取り組んだ後、地域の居場所にもなっているもとやスーパー(再開前を訪問し、本谷一知社長から過去と現在の思いや町野町の復興に向けての構想など)についての話を聞き、継続した支援の必要性を再確認しました。3日目には輪島市朝市の火災跡地や地域の視察を行ったと報告がありました。

町野町や周辺地域では、高齢化が進む中でも、地域の中で声をかけ合い、支え合い生活を営んでいましたが、地震や豪雨により、元々住んでいた集落から仮設住宅へ移ることで、コミュニティの再構築が必要となっています。また能登地域では震災前と比べ、人口の流出が加速しています。これまでの関係性を継続しながら、さらに新たな関係性の構築も求められています。町野町唯一のもともやスーパーでは豪雨から約2カ月後の11月30日に営業を再開しています。スーパーとしての販売コーナーを縮めて、全国から集まった支援物資を並べて無料で持ち帰ることができるスペースや地域の人びとが集まり、集えるスペースを隣地に作り地域の交流の場として活用されるなど地元の方々が新たな取り組みを生み出しています。降雪の時期はボランティアも十分な活動をするのができない状況にありますが、今後も継続した支援が求められています。



## 能登半島地震・豪雨災害支援活動報告

### 体験と交流から多くの学び

YMCA健康福祉専門学校  
介護福祉科1年生 田代菜々美

11月5日から7日まで支援活動に参加しました。能登半島の被害状況はニュースやSNSで分かりましたが、現地の人々の状況は実際に行ってみないと分からないと思い、ボランティアに参加しました。現地では当事者の方と話をし、悲しくなることや実際の状況を見てつらくなりましたが、現地の方たちは、前に進もうと復興に向けて取り組んでいました。地域の人と段ボールに絵や文字で未来図を作成しました。つらい状況にあっても多くの方が前に進もうという強い思いが伝わってきました。

### 支援活動ができたことに感謝

横浜YMCAスポーツ専門学校  
スポーツトレーナー科3年生 三神直樹

11月26日から28日に現地で活動しました。輪島市町野町の人たちが生活をする上で欠くことのできないもとやスーパーが、復活を目指して前に進んでいる状況を知ることができました。困難な中であっても前向きで元気な人たちが多く感じました。本谷社長の「ボランティアに力を与えてもらっている」という言葉が印象に残っています。はじめは「ボランティアをするぞ」という気持ちでしたが、「させていただく」のだということに気が付き、このような活動ができることに感謝をしたいと感じました。

### 何ができるか引き続き考える

聖光学院高等学校  
1年生有志・引率教員

聖光学院高等学校1年生有志が11月19日から21日に6人、11月26日から28日に6人とそれぞれに教員1人が引率し、計延べ14人がボランティア支援活動に参加しました。町野町での活動は、スコップで個人宅の泥だしや植木などの運び出しを行いました。帰り際にいつまでも手を振りお礼をしてくださる笑顔は忘れられない人生の1ページになったと思います。一方、現地の苦難の状況を見ると、私たちに何ができるのか引き続き考えなくてはならないと強く感じました。

### 関係性大切に継続した支援活動を

厚木YMCA・YMCA健康福祉専門学校  
大塚英彦スタッフ

1月の地震以降5月の1週間、輪島市町野町の東陽中学校避難所に運営サポートスタッフとして関わりました。YMCAのゼッケンをつけて避難所の敷地内を歩いていると、皆さんが「おつかれさま!」と声をかけてくれ、顔見知りのように話をしてくれました。豪雨後2度目、3度目の訪問時には、現地のボランティアセンターのスタッフから「YMCAには安心して任せられる」と声をかけられました。1月の地震以降、全国のYMCAがリレー形式でサポートを継続してきた関係性によるものと思います。今後も現地の人びとに信頼されるような支援活動を続けたいです。

横濱中央YMCA/横濱北YMCA/藤沢YMCA/横須賀YMCA/川崎YMCA/厚木YMCA/鎌倉YMCA/YMCA山手台センター/湘南とつかYMCA/金沢八景YMCA/YMCA東とつかセンター/大和YMCAライフサポートセンター/横浜YMCAワークサポートセンター/アンジュ/横浜YMCAワークサポートセンター/レザン/YMCAあつき保育園ホサナ/YMCA山手台保育園アルク/YMCAとつか保育園/YMCAマナ保育園/YMCAとつか乳児保育園/YMCAつるみ保育園/YMCAかわさき保育園/YMCAいずみ保育園/YMCA東とつか保育園/YMCA東かながわ保育園/YMCAたかつ保育園/金沢八景YMCA保育園/YMCAオベリン保育園/大和YMCA保育園/富士山YMCAグローバル・エコ・ヴィレッジ/三浦YMCAグローバル・エコ・ヴィレッジ/鶴見中央YMCA/YMCAライフサポートセンター-鶴見

昨年度は、我が家の孫たち三人が登戸のYMCAにお世話になり、長男はプールとサッカー、長女はプールに通いました。保育園児の二男は4月からプールに行くこと決めています。実は彼ら三人の母親、41歳の私の娘も小学生時代は登戸のYMCAに通っていました。そんな訳で私も小学生だった娘とファミリー・スキーキャンプに参加したことがありますが▼妻からは、今年50歳になる彼らの叔父が多摩川べりの川崎YMCAでのサッカーの話をすると、自分たちが通うプール、つまり川崎YMCAの歴史の長さに驚いていました▼私も1983年の会館建築の委員の一人として完成の献堂式で川崎YMCAの働きが長くこの地域に用いられることを祈りました。スタッフや多くの人たちの働きで42年が経ちました▼歴史の長さもさることながら、YMCAは人との出会いの場所だと孫や娘に伝えました▼彼らの生まれるずっと前の1958年、私の田舎である北海道の名寄市の教会で、将来神学校への入学を迷っていた私を当時の札幌YMCAの総主事池田鮮先生が励ましてくださり、私は無事に東京の農村伝道神学校に入学、卒業後牧師になりました。1972年フィリピン合同神学校研究科の学びの後、香港に寄ると池田先生はアジアYMCAと日本人キリスト者集会の責任を担っていました。私はその日曜日の説教を命じられました▼1981年私が生田教会に赴任すると池田先生夫妻が教会員でした。(進)

ホドス

ホドス

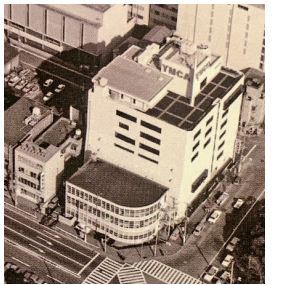
# YMCA NETWORK NEWS

## Topics 140years of HISTORY 新しいコミュニティーの形成目指す vol.12

1970年代に入ると高度経済成長の歪みが現れはじめ、豊かさの質が問われるようになりました。1972年に就任した第9代吉村恭二総主事は、このような状況に対して「青少年の問題を中心に地域形成に寄与するYMCAでありたい」と人間性豊かな新しいコミュニティーの形成を目指して、1972年にはセンター第1号として戸塚センターを開設しました。常時200人の会員と200人の季節プログラム参加者がありました。翌1973年には二俣川センターを、1974年には青葉台センターを開設しました。

また、同1974年には、建設から半世紀が経ち老朽化していた本館の立て替えに着手し、日本経済が低迷にある中、伊原隆横浜商工会議所会頭(横浜銀行頭取)を会長に建設後援会が作られ、100人を超える後援会役員の方々の強力な支援によって、1975年10月、室内プールを備えた総合的な施設内容を備えた9階建ての「横浜国際青少年センター」(現横浜中央YMCA)が開館しました。スィミング、全日制予備校、結婚式といった事業が開始されました。

旧本館の解体は3カ月間に及びました。それに先立ち事業活動の分散が行われ、尾上町スカイビル、伊勢佐木町別館に本館事業を分散しました。関東学院三春台高等学校の好意により体育館を夜間借用し育成体育プログラムにとっても大きな助力となりました。



多くの支援によって建てられた横浜国際青少年センター ▲ (1975年 現横浜中央YMCA)

### ポジティブネットをひろげよう ~今月のよくなる一歩~

みつけよう  
しょうらい みち ひら  
将来の道を拓こう  
(Responsibility 責任感)

### 横浜 最優秀賞受賞 スピーチコンテスト

「第36回外国人留学生による日本語スピーチコンテスト」(主催 神奈川県専修学校各種学校協会横浜支部)が1月30日に関内ホール(横浜市中央区)にて開催された。このコンテストには、横浜市内の専門学校を中心に9校から16人が出場し、日ごろの学習の成果を発表した。



横浜YMCA学院専門学校日本語学科の柯瓊(ケジョウ)さん(中国)は、「自分になれ!」のテーマで出場し、最優秀賞の横浜市長賞を受賞した。スピーチでは「いつまでも自分らしくありたい」と話し、「多文化共生を意識しながら楽しくスピーチができた」と感想を語った。同校から「大人っぽくなるために」をテーマに出場したマドゥマパタバンディゲランディニウイハハラさん(スリランカ)は努力賞を受賞した。二人は会場でクラスの仲間の応援を受けて、練習の成果を発揮することができた。

## 会員大会-ピースフォーラムを開催 ハイブリッドで212人の人とともに平和を考えた

### 絵本から学んだ私たち一人ひとりの平和をつくる在り方



横浜YMCAでは、2月11日に、湘南とつなぐYMCAの会場とオンラインにて「会員大会・ピースフォーラム」を開催した。このフォーラムは、会員事業委員会(古賀健一郎



▲子どもたちに世界につながる子どもたちと仲良く信頼関係を作ってほしいと願う絵本の言葉を増やし作成している

委員長)が中心となり企画・準備・運営が行われた。会場には維持会員、プログラム会員と保護者・家族、会員の知人、YMCAに関心のある人など212人(会場150人・アクセス62)が参加し、特別講演と子どもたちによる広島ピースキャンプ報告をはじめ、ウクライナ支援・能登の報告が行われた。

鈴木茂会員事業委員により開会礼拝が行われた後、工藤誠一理事長が「対面とオンラインで多くの皆さまとともに平和について学んでいきま

しょう」とあいさつを述べた。続く特別講演は浜田桂子氏(絵本作家・画家)を招き、「絵本から学ぶへいわってどんなこと?」をテーマとして行われた。浜田氏は、中国・韓国・日本の絵本作家と平和の絵本『へいわってどんなこと?』を3カ国で共同出版(日本は童心社)を通して、平和とはどういうことかを改めて一緒に考えていきたいと話した。浜田氏は子どもたちに戦争の悲惨さと平和はうれしいことであるという両側面を伝える必要があるという。また日常的な「平和の姿」「平和の光景」を認識できたら、それが脅かされることに気づくことができるという。絵本の制作時には平和の捉え方が国によって違うことなども認識させられながらも受け身でなく、平和とはどのようなものかについて明確な意志を示し絵本の言葉に表したという。最後に、浜田氏は参加者に向けて絵本を読んだ後、「自分も相手も大切な存在として考えること、共感し合うこと、大人が子どもに希望を伝えることなど平和をつくることを意識してい

きましよう」と語った。続いて、広島ピースキャンプに参加した子どもたち(YMCAとつなぐ学童クラブ・東戸塚小学校放課後キッズクラブ)による報告が行われ、平和記念資料館の見学や横浜YMCAの多くの人が作った千羽鶴を献納した報告があったほか、平和につながる自分たちのできることをして「けんかをしない」「人に親切にする」「相手の気持ちを考える」

## Sport in Life 2024 益子直美氏講演会



▲益子直美氏の体験から子どもたちが楽しくスポーツに臨める環境の大切さ学んだ

横浜YMCAでは、スポーツの一人でも多くの人にスポーツを楽しんでもらい、スポーツを行うことが生活習慣

の一部分となるような社会を目指す「Sport in Life 2024」が、このカラダづくりプロジェクトの委託事業を受けた。

その一環として1月25日に、横浜市舞岡地区センター(指定管理者横浜YMCA)にて、益子直美氏(元バレーボール全日本代表選手・現公益財団法人日本スポーツ協会副会長・日本スポーツ少年団本部長)を招き、講演会「怒らない子育て・子どものヤル気を引き出す関わり方」を開催した。10年が経ち、大会は各地に広がり、監督が怒らないチームが優勝したことが報告された。子どもたちが楽しくスポーツに臨める環境の大切さを学ぶ機会となった。

実業団では日本リーグで優勝し、全日本メンバーにも選ばれた益子氏は、失敗して監督に怒られないようにと自己肯定感の低い選手だったと振り返った。そのような背景から「監督が怒ってはいけない大会」(福岡大会バレーボール)を2015年から開催している。10年が経ち、大会は各地に広がり、監督が怒らないチームが優勝したことが報告された。子どもたちが楽しくスポーツに臨める環境の大切さを学ぶ機会となった。

佐竹博総主事が「YMCAのプログラムを通して平和をつくることにともに取り組んでいきましょう」と述べた。

## ♪子育てランド♪ 共感して楽しむ時を

子育て中のお父さんやお母さんは、子どもと一緒に同じ遊びを楽しめていますか?  
公園へ連れて行き玩具を渡したあと、一緒に遊んでいますか?  
私が子育てしていた時も玩具を渡して公園で見守りだけをしていたように思います。  
自分が祖父母世代となった今、同じ時間、同じ空間の中で子どもが何を感じているのか、一緒に遊びながら体感してみました。落ちていりどんぐりを見つけ「いっぱい!」とうれしそうに両手のどんぐりを見せてくれます。袋に入ると今度は集

めることが楽しくて「あった!」と喜んで拾い、その次は「ぼうしついでた」「おっきい」など違いを見つける遊びへと次々に発展していきました。私が「あったね!」「そうだね」と共感するととても満足気にしています。  
子どもと一緒にあそびを共感することはいいものだなとつくづく感じた瞬間でした。  
皆さんも子どもと一緒にひとつの遊びを共有・共感して楽しむ時間を過ごしてみたいかがでしょうか。新たな発見があるかも知れません。(YMCAいずみ保育園 保育士 平野芳子)

### 横浜 リーダーが企画運営 「ギターのかい」活動中

横浜YMCAのキャンプリーダー（指導者）は、月に3回程度「ギターのかい」を開催し、所属するYMCAは異なるリーダー同士が、ギターを通じて交流を深めている。練習は初心者向けとキャンピングギターがある。1月26日にはユース職員との交流を行い、初心者向けの練習も行った。



一方、2月2日には横浜中央YMCAにて、横浜中央・金沢八景YMCAのリーダー24人が参加し、交流会を行った。会では東日本ユースリーダーズフォーラムや日本YMCA大会、能登半島復興支援活動の報告を聞き、横浜YMCAの活動を知る機会となった。

## 幼保連携型認定こども園YMCAつるみ保育園 YMCAかわさき保育園 開設20周年迎え感謝会開催 卒園児・保護者・園児・地域の方とともに祝い豊かな交わりの過ごす



▲開設20周年記念礼拝でメッセージを語る孫牧師(YMCAかわさき保育園)

2004年に待機児童の多い横浜市鶴見区に開設したYMCAつるみ保育園(当時/現幼保連携型認定こども園YMCAつるみ保育園)ならびに横浜YMCAにとっては川崎市における初の認可保育園と

なったYMCAかわさき保育園が20周年を迎え、それぞれの園にて記念の感謝会・ホームカミングデーを開催した。1月18日には、幼保連携型認定こども園YMCAつるみ保育園20周年記念礼拝・感謝会が行われた。礼拝では下園昌彦牧師(日本キリスト教団桜本教会)が「一人ひとりを大切に保育の実践を進めてほしい」とメッセージがあった。続く感謝会では、田邊朋美園長が地域や多くの方の支えに感謝の言葉を述べた後、参加者は韓国やブラジルのおやつやワークサポートセンターアンジュのパンなどを食し地域の関係者や保護者、卒園児など200人とともに祝った。

2月8日には、YMCAかわさき保育園20周年記念礼拝・ホームカミングデーが行われた。礼拝では孫裕久牧師(日本キリスト教団川崎戸手教会)から「保育園は幼子にとって母であり家です。保育に関わる働きは尊い」とメッセージが語られた。続くホームカミングデーでは佐藤達哉園長が日ごろの感謝を述べ、これからも地域で必要とされる保育園として歩み続けたい

## YMCAの使命に賛同する 賛助会企業と地域に貢献

横浜YMCA賛助会は、横浜YMCAの青少年育成や地域の人びととともに平和な社会を創ることを目指す目的と願いに賛同し、その活動を援助、支援する法人により構成する会員組織となっている。2024年度は、横浜YMCAインターナショナル・チャリティラン支援のための異業種交流会は、対面で開催。名刺を使ったビンゴゲームで交流を深め、チャリティーオークションにて支援金を集めた。

### 2024年度賛助会入会会社

- 厚木ティービルサービス(有)、(株)安藤スポーツ、アソシエーツ、(株)伊藤園、上野トランステック(株)、(株)エイコープリント、小倉会計事務所、鹿島建設株(株)神奈川新聞社、川本工業株(株)共栄社、(株)崎陽軒、協同電気(株)、(株)グリーンハウス、(株)サカクラ、(株)サス・スポーツプロダクト、湘南ひかりのくに(株)、SOMPOひまわり生命(株)横浜支社、大成建設(株)、(株)ダイイチ、ダイドードリンコ(株)、タカナシ乳業(株)、タカノ(株)、(株)テレビ神奈川、(株)東京コロニー、東京都大田福祉工場、戸田建設(株)横浜支店、(株)日栄ビルサービス、日興テクノス

## 維持会員

- 有馬光彦、井上貴子、勝又勇人、加藤隆仁、クロタカ明美、鈴木明子、竹永里砂、田中沙也香、富澤博、長谷川由美、東田衣、瀧久美子、松本古奈木、森祐美子、山中誠山本俊正(順不同・敬称略。2月5日までに入金いただいた新規登録の方です)。

## FLASH NEWS

2024年3月と8月のグローバル・スタディーツアーinタイに参加したユースは、1月25日にバンコクYMCAパヤオセンターとオンラインで交流会を行った。初めにパヤオセンターから子どもたちの様子と夏に発生した洪水の被害や支援状況について報告があり、洪水の被害の大きさを改めて実感した。その後は、ブレイクアウトルームでグループに分かれ交流した。子どもたちからは日本語の歌のプレゼントもあり、参加者と子どもたちは互いに今後も交流の時を持つことを誓った。



障がい児・者とともに歩む「輪和Waコンサート86」(同実行委員会主催)が3月15日(土)午後1時30分から大和市保健福祉センター・ホールにて開催される。このコンサートはだれもが参加でき、みんなで楽しむコンサートとして2007年から大和MCA運営委員会が中心となり開催されている。100回開催を目指し、100回実施した14回引き算して今年は86回となっている。参加費1,000円(全席自由)。

## ワイズ ありがとうYMCA、ワイズ コーナー 厚木ワイズメンズクラブ

厚木ワイズメンズクラブは、昨年(2024年)12月に設立20周年記念例会を厚木YMCAにて開催することができました。認証日2004年9月4日からの在籍メンバーは現在1名です。20年という歳月を重く感じます。その伝統を受け継ぎ今に至っていること、教を請いながらの手づくり記念誌「20年の歩み」に思いを寄せていただいたことは先人方のお導きの賜物であり恩返しと思っています。時代の変化が著しい中において、YMCAとともに新しい課題に取り組み、新たな歩みを楽しんで進めたいと思います。そのために、楽しいクラブづくりを目指して毎月卓話者を迎え学び続けます。そして仲間との信頼関係が深まることで将来のユースの育成や社会貢献につながることを目指します。(厚木ワイズメンズクラブ会長 佐藤節子)

### ひとかき 人びとの言葉

総主事 佐竹 博

震災遺構となつてしまっている福島県の「浪江町立請戸小学校」に行ってみました。津波を受け破壊された校舎の1階部分には、波によって1カ所に集められ変形した機材や、児童たちが使っていたと思われるシャベルやパソコンなどがそのまま残っていて津波の怖さを伝えていました。津波の被害を直接受けなかった2階の展示スペースには、人びとの言葉がありました。請戸小学校の元児童が10年後に寄せた文章には「避難した高台で聞いた「請戸全滅」の防災無線。翌日の朝、見慣れない防護服を着た人たちの姿、目に入るものすべてのものが今まで経験したことのないものでした」とありました。災害に遭われた方々の声をこれまでのYMCA経験の中

で聞いてきました。「地震で何もかも失った、でも生きていてよかった」「地震だけでもまだしも津波は何もかも攫って行ってしまった」「地震の後立ち直ろうとしたらい。でも原発災害で避難した後所では、集団移転の場所に戻るかどうか決められない」。語り部の言葉には「日が暮れて捜索が打ち切られ翌朝にと思ったら、翌朝になつたら強制的に避難しなければならなくなった。まだ生きていた人がいたんじゃないか」と。海に面した学校前の広場に出ると、海に向かって右に福島第一原発の煙突や作業クレーンが見えました。こんな近くだったのかと。わずかに約6キロ。あそこで作られた電気のほとんどは200キロ先の首都圏で使用されていました。小名浜に住む叔母の言葉「どうして東京で使う電気を福島で作らなければならぬの？東京湾に作ればいいじゃない」。

横浜中央YMCA Tel 045-662-3721  
 横浜北YMCA Tel 045-433-4321  
 藤沢YMCA Tel 0466-26-1151  
 横須賀YMCA Tel 0466-854-5126  
 川崎YMCA Tel 044-932-2031  
 厚木YMCA Tel 046-244-4181  
 鎌倉YMCA Tel 0467-24-7859  
 YMCA山手台センター Tel 045-813-1022  
 湘南とつかYMCA Tel 045-864-4768  
 金沢八景YMCA Tel 045-782-3003  
 YMCA東とつかセンター Tel 045-392-3747  
 大和YMCAライフサポートセンター Tel 046-264-3192

横浜YMCAワークサポートセンター・アンジュ Tel 045-867-0090  
 横浜YMCAワークサポートセンター・レザン Tel 045-860-5252  
 YMCAあつぎ保育園オサナ Tel 046-222-8619  
 YMCA山手台保育園アルク Tel 045-813-1022  
 YMCAとつか保育園 Tel 045-870-3663

YMCAマナ保育園 Tel 045-790-3588  
 YMCAとつか乳児保育園 Tel 045-870-3235  
 YMCAつるみ保育園 Tel 045-500-5030  
 YMCAかわさき保育園 Tel 044-520-1825  
 YMCAいずみ保育園 Tel 045-800-3010

YMCA東とつか保育園 Tel 045-820-5588  
 YMCA東かながわ保育園 Tel 045-440-3763  
 YMCAたかつ保育園 Tel 044-281-7833  
 金沢八景YMCA保育園 Tel 045-353-5130  
 YMCAオベリン保育園 Tel 042-707-9974  
 大和YMCA保育園 Tel 046-214-3192  
 辻山YMCAグローバル・エコ・ヴィレッジ Tel 0544-54-1151  
 三浦YMCAグローバル・エコ・ヴィレッジ Tel 046-888-2100  
 鶴見中央YMCA Tel 045-508-7800  
 YMCAライフサポートセンター・鶴見 Tel 045-506-0131  
 本部事務局 Tel 045-662-3721

# INFORMATION

## 横浜YMCA



●新型コロナウイルスの感染・拡大防止のため、イベントを延期・中止させていただく場合があります。(参加費は税込み)

## レクチャー

### ■イングリッシュセミナー

日時 3月21日(金)午前10時～正午  
 会場 鎌倉YMCA・オンライン(Zoom)  
 テーマ My country, Panama  
 ゲスト Fatima Isabella Reina Peña さん  
 参加費 会員1,200円、一般1,500円  
 申込み kamakura\_info@yokohamaymca.org  
 問合せ 鎌倉YMCA Tel 0467-24-7859  
 ○パナマ出身の講師から文化や生活習慣、などを学び多文化共生について考えていきます。

## イベント

### ■能登半島豪雨緊急支援募金のための

English Song Festival & Charity Concert  
 日時 3月16日(日)  
 午後3時30分～5時30分(予定)開演4時  
 会場 湘南とつかYMCA 1Fホール  
 入場料 1,000円(1人)※中学生以上  
 出演 YASUKO with IRIE AMIGOS  
 予約 不要  
 問合せ 湘南とつかYMCA Tel 045-864-4768  
 ○参加費の一部は横浜YMCA能登半島豪雨緊急支援募金となります。

### ■YMCAこどもにほんごクラブ

日時 3月26日(水)～28日(金)午前10時～12時 ※申込みは1日単位で可能  
 会場 横浜中央YMCA 9階  
 対象 横浜市中区周辺在住の外国につながる子ども(小・中学生)  
 定員 各日10人 ※レベルは問いません。  
 参加費 無料  
 問合せ 横浜YMCA学院専門学校  
 Tel 045-661-0080

○ボランティアと一緒に春休みの宿題や日本語の学習、アクティビティに取り組みます。

### ■ファミリーキャンプ入門

日程 4月19日(土)～20日(日)  
 会場 富士山YMCA(現地にて集合・解散)  
 時間 集合19日12時30分  
 解散20日午後1時30分  
 対象 4歳以上のお子さんを含むご家族  
 参加費 宿泊棟A棟(ツインベッド+布団2組) 大人16,500円・子ども13,200円、  
 宿泊棟B棟(シングルベッド6組)大人15,400円・子ども12,100円(税込み/1人)  
 申込み ホームページからお申し込みください。3月1日(土)から受け付けます。  
 問合せ Tel 0544-54-1151

## キリスト教理解

### ■とつか聖書を学ぶ会

日時 3月6日(木)午前10時30分～

会場 湘南とつかYMCA4階404教室  
 テーマ 聖書を楽しむ学ぼう  
 講師 堀野浩嗣氏(横浜戸塚バプテスト教会牧師)  
 参加費 無料  
 問合せ 湘南とつかYMCA Tel 045-864-4768  
 ymsports@yokohamaymca.org

## 子育て支援

### ■横浜子育てサポートシステム入会説明会

日時 3月4日(火)午後1時30分～2時30分・29日(土)午前10時～11時  
 会場 中区地域子育て支援拠点のんびりんこ  
 対象 横浜子育てサポートシステムに入会を考えている方  
 問合せ 横浜子育てサポートシステム中区支部事務局  
 Tel 045-663-0676

### ■プレママDay

日時 3月25日(火)午前10時～11時  
 会場 金沢区地域子育て支援拠点とことこ  
 対象 第1子妊娠中の方  
 内容 タッチケア体験とおしゃべりタイム  
 問合せ 金沢区地域子育て支援拠点とことこ  
 Tel 045-780-3205

## 採用説明会

### ■2026年卒 総合職採用説明会

日時 3月22日(土)午前10時～12時

会場 横浜中央YMCA  
 申込み マイナビ2026にてお申込みください。  
 問合せ 横浜YMCA本部事務局  
 ○オンライン説明会も受付中です。

## 学校説明会

### ■YMCA健康福祉専門学校

○介護福祉科  
 日時 3月1日・15日・29日(土)  
 午前10時～/午後2時～  
 内容 オープンキャンパス、学校説明会  
 ○オンライン学校説明会  
 (社会福祉科・精神保健福祉科)  
 日時 3月1日・15日・22日(土)  
 午前1時30分～午後3時、  
 13日(木)午後6時～7時  
 申込み QRコードからお申し込みください。  
 問合せ Tel 046-223-1441

### ■横浜YMCAスポーツ専門学校

日時 3月1日(土)、2日(日)、9日(日)、15日(土)16日(日)  
 午前10時30分～12時、  
 午後2時～3時30分  
 内容 学校・入試説明会  
 申込み QRコードからお申し込みください。  
 問合せ Tel 045-864-4990  
 ※各専門学校では入試試験実施中

## 恵方巻きづくりに取り組むみどりクラブ

2月3日に、第25回みどりクラブの「恵方巻きづくり」が十日市場地域ケアプラザにて行われました。参加者は節分について学んだ後に、恵方巻きづくりにチャレンジしました。巻きすとのりのの上にあるごはんの上にさまざまな具材をのせて巻き、食しました。参加者からは「節分はウクライナのストリテンニアという儀式に似ている季節の代わり目を表現するものです」と話しました。この日も日本の文化理解と互いの交流を深める時を過ごしました。



## 横浜市創設の脱炭素取り組み宣言各YMCAにて宣言進める

横浜YMCAは2月に、横浜市が創設した、身近な省エネ活動を含む脱炭素化に取り組むことを宣言する「脱炭素取組宣言」を各YMCAにて進めています。脱炭素化は、気候変動の緩和と持続可能な未来の実現に不可欠とされています。横浜YMCAでは、自然エネルギーの使用を推奨し、脱炭素化を推進しています。また、職員によるSDGs委員会を中心に、各YMCAでのこまめな消灯やペーパーレス化など、一人ひとりができる身近なことから脱炭素化への取り組みを推進していきます。



## 140years of HISTORY

横浜YMCAは2024年10月に140周年を迎えました。140年のあゆみを写真で紹介します。



▲横浜YMCA創立95周年記念式典(神奈川県民ホールにて1979年)

## My Y Story

182

## YMCA専門学校の学び活かし子どもたちに寄り添う保育士に

横浜YMCAスポーツ専門学校  
 スポーツトレーナー科・子どもスポーツ・保育コース

高田 帆夏



私は、子どもが好きで将来は保育士になりたいと思っていました。高校3年生の時に、横浜YMCAスポーツ専門学校のオープンキャンパスにオンラインで参加して、私がずっと続けてきたスポーツと保育の両方を学べることに魅力を感じて入学しました。

入学後は、保育園や体操プログラムのリーダー活動を通して、たくさん子どもたちに出会いました。素直な気持ちを持つこと、楽しんで取り組むこと、努力することの大切さについて学生生活を通して改めて感じました。

そのような中で、子どもたちができなかったことができるようになった成功体験を子どもに寄り添い共有できた時を重ねることに子どもが好きなという気持ちはさらに強くなり、子どもたちのためにがんばることが私の生きがいにつながると気づかされました。私が子どもたちに愛情をもって接し、信頼関係を作っていくことが、自分を愛し、人を信じていることのできる人になっていくと思うのでその気持ちを大切にしています。

きたいと思っています。専門学校生活を振り返ると、昨年のYMCA祭が一番思い出に残っています。クラス全員で子どもたちが楽しめるゲームコーナーを協力して考え、きずなも深まったと感じたことやコーナーに来てくださった子どもたちの笑顔がとても記憶に残っています。また、専門知識の学びとともに、実習では子どもたちに寄り添うことや子どもへの主体性を大切にすることについて学ぶことができました。

昨年の8月に、広島YMCAのピースセミナーに参加しました。ステイブン・ロイド・リーパーさん(広島平和文化センター元理事長)から広島島の歴史や核廃絶についての話を聞き、過去の事実を学び、知ることにより自分の考えも整理され、平和について改めて意識を持つようになりました。4月からは横浜YMCAの保育士として働く予定で準備をしています。キリスト教の理念に基づき、子どもたち一人ひとりが愛されていると感じるような保育を実践していくことに魅力を感じています。不安な気持ちもありますが、実習で学んだことを活かして、笑顔で子どもたちに関わり、チャリティイベントなどを通して社会に貢献していきたいと思っています。



▲専門学校と併設のYMCAとつか乳児保育園で子どもと触れ合う